

柳川らしい道路景観を

三橋筑紫橋線 懇話会が報告書



金子市長に報告書を提出する懇話会メンバー

柳川市の中心部に位置する都市計画道路三橋筑紫橋線について、今後の整備の在り方や整備に際する配慮事項を検討してきた「(都)三橋筑紫橋線の道路景観に関する懇話会」(ワークショップ)のメンバーたちが29日、柳川市役所を訪れ、金子健次市長に取りまとめた報告書を提出し、意見交換した。市はこの報告書を道路事業者の福岡県に届ける。

同道路の未着工部分は市民会館前の交差点から筑紫町の有明新報社柳川地方総

局前までの約650m。柳川市の主要な観光施設や市役所、市民会館に近く公共施設が密集する地区に位置する。歴史的な街並みとともに、古い小路などもそのまま残っており、災害時における緊急車両の進入が困難などの問題が挙げられていた。1市2町の合併に際して新市マスタープラン作成の時に建設に向けた提言が提出され、整備の在り方の検討が重ねられてきた。

検討してきた懇話会は久留米工業大学建築設備工学科の大森洋子教授を顧問に地元区長、沿線住民、伝習館、柳川の高校生たち、柳城中学校PTA会長、市観光協会と行政の25人で構成。平成27年9月から今年1月末まで計4回開いた。沿線の魅力や課題の抽出を基にしたコンセプトの決定

や各道路構成要素に対する整備イメージや配慮点などを検討し、まとめた。報告書を受け取った金子市長は「いろいろな意見が出た。重要な路線で協議を重ねて今後着手していくことになる。これらの考えが実現できれば」とあいさつ。大森教授は「地域の人たちや若い人たちがすこ

誇りに感じている。観光で訪れた人たちが気持ちよく過ごせるための道路にしてほしい」と話し、城内地区区長会の中川辰蔵会長は「できるだけ早い時期に造っていただきたいというのが地元住民の願い」と訴えた。出席した高校生たちも意見を述べた。

(小原 郁夫)